

第7回国立市南部地域整備基本計画の策定に伴う 市民討議会実行委員会記録（要旨）

日 時：平成21年1月5日（月）午後6時30分～午後9時30分

場 所：市役所3階 第2会議室

出席委員：5名

欠席委員：4名

傍 聴：0名

事務局：4名

会議資料：①市民討議会の準備について

②参加依頼書に関する資料

③グループ構成と討議の進め方・セルの概略及びスケジュール（案）について

④市内NPO法人認証団体一覧

⑤国立歩記（市内ミニコミ誌）

⑥実行委員会の日程について

1. 開会挨拶（小林委員長）

- ・新年早々ですがお集まりいただきありがとうございます。

2. 第5回及び第6回実行委員会議事録の確認

- ・事前に送付した第5回及び第6回実行委員会議事録について、本日までに事務局へ追加や修正等の意見がなかったため、改めて意見を伺ったところ特に意見もなく、送付されたとおりで了解された。

- ・配布資料の確認（事務局）

3. 市民討議会の準備について

（1）周知の方法等について

【主なご意見】

- ・プレスリリースの原稿（案）について、「話し合いの内容は、1日目は南部地域の現状や魅力などについて知っていただき」とあるが、これだとただ聞くだけのようになってしまうのではないかと思う。
- ・1日目は議論するというより感想や疑問を話してもらうのが趣旨であるが、確かに「知っていただき」だけではうまく伝わっていかないようだ。

- ・「知っていただくと同時に話し合ってください」「意見を述べ合ってください」などの意味が込められると良い。
- ・意見といっても2日目の解決策のことにもつながってしまわないような表現としておきたい。
- ・プレスリリースの時期までまだ時間があるので、この部分の表現については保留とし、2日間の内容を話し合ってから適切な表現をまた考えてはどうか。
- ・小テーマは事前に知らせないことが確認されているので、事務局がプレス対応の際にも小テーマは伏せておくように心がけておいてほしい。また、情報提供者の名前などの情報についても注意して扱ってほしい。
- ・記者会見などの予定はあるか？
→立川記者クラブ等の報道機関に一斉にFAXを送り、その後個別対応を考えている。

【集約】

- ・2月5日号市報原稿（案）については、大テーマを「南部地域のまちづくり」に訂正することで資料のとおりで確認された。
- ・プレスリリースの原稿案については一部の表現が保留となり、引き続き検討していくこととなった。

(2) 参加依頼書について

【主なご意見】

- ・公開抽選を行うかどうかについて、参加申込者は知る術がないと思うが。
→参加依頼書の本文中に抽選結果の連絡と抽選のない場合を説明しており、抽選に関しての新たなお知らせは行わない予定である。参加希望者が50人に満たない場合は、締め切り後速やかに決定を通知することとしており、なるべく速やかに通知することで対応したいと考えている。
- ・参加希望者には、2月6日までに決定通知が届いていれば公開抽選がなかったものと了解していただくことで良いのではないか。
- ・三鷹市では取材の関係もあって午後2時頃に抽選会を行った。今回取材があるかどうかはわからないが、オープンに行うことを原則とすれば抽選は何時でも良いのではないか。
- ・仕事をしている人にとっては夜のほうが参加しやすいが、皆さんどうだろうか。
- ・抽選は公正にきちんと行ったということが証されれば良いので、何時でも良いと思う。公正取引委員会では警察官の立会がある例もあるが、公的で中立的な立場の方に立ち会っていただくのが良いと思う。
- ・どういった方法で抽選するのか？
→市民課で行う都営住宅の抽選に用いるものを使用しようと考えている。

- ・今回は主催者である市長は中立の立場とはならないので、市議会議長もしくは市議の各会派の方に来ていただけると良い。しかし議長には頼み難いと思うので、次の案として、部長と実行委員長とで署名入りの文書により証するなどどうだろうか。
- ・当事者だけの参加ではやはり説得力が弱い。書面だけでなく第三者に見ていただきたいが、議長は難しいのだろうか。
- ・マスコミが来てくれれば事実上の第三者となるが、今回取材があるかどうかは不明である。
- ・名前ではなく番号で抽選するので作為は入らないと思われる。
- ・一部始終をビデオで撮影しておくなどして、後日質問があった場合に対応できるようにしておけば十分ではないか。
- ・主催者である市が抽選し、実行委員が立ち会う形で行うことでどうか。
- ・前回実行委員会で、参加申込書に押印を求めないことになったため、参加依頼書の参加申込書の説明内にある「押印のうえ」は削除してほしい。
- ・託児が1歳以上となっているが、実行委員会でこれまでに討議していないが、0歳児の希望があった場合どうするか。
- ・0歳児を預かるには設備等が必要となるので難しいのではないかと。ドイツの事例では、子どもは預けても良いし1歳未満の子どもの場合は自分の傍においても良いこととしている。つまり、子どもがぐずった場合などはその場での対応があることが認められているということである。子どもと一緒にあっても参加したいという方がいらっしゃるのであれば、参加してもらおう方が良いのではないかと。個人の育児方針に関わることなので、どちらが良いかは決められないのではないかと。
- ・立川青年会議所から依頼する有資格保育者は0歳児からの保育経験があることを確認している。
- ・裁判所の調停でも最近は乳幼児をあやしながら行うこともあるので、決めつけないで対応するほうが良いのではないかと。
- ・参加依頼書においては託児サービスは1歳以上としておき、「0歳児は託児利用できないか？」との問い合わせがあった時には事務局から「傍にいて良い」と対応してもらおうということはどうだろうか。
- ・少子化社会になって、国が行う公聴会などでも子連れ参加を認めるようになってきた。子育てをみんなでするという施策の方向もあるし、子どもだけでなくしょうがいしゃの方やいろんな状況の方もいらっしゃると思うので、皆で協力しながらご参加くださいという雰囲気づくりに努めてはどうかと。
→相談案内チラシに「赤ちゃんがいるのですが」という問合せを追加することで対応したい。
- ・相談案内チラシの白抜き文字は見難いので黒字に変えた方が良い。
- ・ポスターでは、市民討議会を開催することと参加依頼書が届いたらぜひ来てほしい

ということを訴えると良い。不特定多数向けのポスターであれば日時などを大きく目立たせる必要があるが、市民討議会当日の参加者は特定されているので開催関連の情報は小さな字でも良いのではないかと思う。

- ・紙面の真ん中に訴えたいことを掲載する形が良い。
- ・ポスターは情報が多すぎないように、ポスターの前を通る人が目をとめて立ち止まって見てもえるような構成で良いと思う。
- ・ポスターは、以前に資料として出されている事務局案を修正する形で良いのではないか。

【集約】

- ・参加希望者が50名を超えた場合の公開抽選は2月6日（金）午後7時から行い、主催者である市が抽選し実行委員が立ち会うことで確認された。
- ・参加申込書の修正。（押印の削除）
- ・託児サービスは1歳以上を原則とし、0歳児については相談案内チラシ内の想定質問として乳幼児がいる場合は保護者の傍においても良いことを載せることで確認された。
- ・相談案内チラシの白抜き文字は見難いため黒字に修正する。
- ・ポスターは事務局で修正し、メール出確認することとなった。

（3）情報提供者について

【主なご意見】

※情報提供者に関する主なご意見は、市民討議会開催後に公表させていただきます。

- ・1つ目のテーマ「南部地域の魅力について」と2つ目のテーマの「南部地域の課題について」で出てくる意見が重ならないような意見の求め方をする必要がある。
- ・今ある魅力のことや、反対に整備されていないことによる今後の開発の余地というものも見方によっては魅力となる。
- ・「南部地域の魅力について」だと現状での魅力のことのみの意見となり今後のポテンシャルの意見が出ないことが予想されるため、「魅力ある南部地域とは」と聞いたほうが良いのではないか。
- ・2つの討議を終えたときに自ずと魅力と課題は一对であることを感じてもらえるのではないか。
- ・魅力についての情報提供者は一人でも良いと思う。写真やビデオなどがあるとわかりやすい。
- ・ビジュアルな資料も良いが何よりも実地を体験するのが大事だと思う。道路が狭いと言葉で説明されるだけよりもその現実を体感してもらえると課題として受け止め

やすい。

- ・魅力については、当事者でなくなるべく中立的な方や学識者が良いと思う。
- ・課題についての情報提供者は農協の方や区画整理事業組合の方などが考えられる。
- ・課題については農業委員会の方などがふさわしいのではないかと。
→農業委員会と農協は別組織で、農家が直面している課題については農協の職員よりも理事のほうが詳しいように思う。農家地権者の中で、農協理事をしたり農業委員会に出たり役割分担しているようなので、農業委員会と農協のどちらにせよ地権者からお話を聞くほうが良いように思う。手続き的には、農業委員会の事務局は市が担っているので農業委員会からふさわしい人を推薦してもらう方法でどうか。
- ・課題についてのもう一人の情報提供者は、農家でない方や区画整理に意見をお持ちの方が良いのではないかと。
- ・市民の方を情報提供者とする場合は、政治的な肩書のない方が良い。それぞれ政治的意見は持っていることはあるが、実行委員会としてどのように情報提供者を選定したかを問われたときに説明できるようにしておかなければならない。
- ・「広く知らせるには」というコマでは、自発的に知らせるにはどうしたら良いかという意見が出てくると思う。まちづくりは行政に任せているだけではだめなんだということに気づいてもらいたい。
- ・広く知らせるということは広報ということなので、南部地域に限らないが国立市のことを発信している方が良いと思う。
- ・情報発信の方法をお聞きできると参考になるのではないかと。
- ・行政の広報担当者から現状や悩んでいることなどを率直に話していただき、市民にアイデアを求めるのも良いと思う。
- ・行政の担当者がその場で批判されるのは会の趣旨ではないため、情報提供の仕方にも工夫してもらい、参加者には「公」と「民」が互いに補完する方法を考えてもらうと良いのではないかと。

【集約】

※情報提供者に関する集約は、市民討議会開催後に公表させていただきます。

- ・1日目の情報提供者については、以下のように確認された。
南部地域の魅力について：高橋賢一氏（法政大学大学院教授、都市環境工学）
南部地域の課題について：農業委員会から推薦してもらう。
田中和徳氏（南区自治会長、区画整理に関し意見有）
南部地域を広く知ってもらうにはどうしたら良いかについて：

市の広報担当職員

田中えり子氏（市内ミニコミ誌発行者）

- ・ 2日目のテーマの情報提供者については、今日の資料や議論を踏まえ、各委員で予め検討しておくことが確認された。

3. その他

① 1月8日（木）19時から、参加依頼書の発送準備作業を行うことで確認された。

第8回実行委員会は1月9日（金）19時から、第9回実行委員会は1月19日（月）19時から開催することで確認された。

②事務局に対し次の検討を行うよう指示があった。

- ・ 1日目の午後の南部地域の見学ツアーの実施の検討。
- ・ 2日目の午後の最後の討議の活性化と場のなごみを狙いとしたケーキタイムの実施の検討。
- ・ 2日目終了後に、今後の市民参画につなげることを狙いとした交流会の実施の検討。

以上